

第5回

全国鳥獣被害 対策サミット

鳥獣被害対策と利活用の継続的な活動に向けて

現在の鳥獣被害対策には、担い手の育成や捕獲個体の利活用など様々な課題があります。これらの課題は農業従事者や行政担当者だけでは対応が難しく、解決のためには様々な業種の連携が必要とされています。今回のサミットでは鳥獣被害防止や利活用の分野で、業種・立場を越えて連携した活動を行っている方々に、その取組や今後の展望などをお話しいたします。



2018年 **2月27日** 火
10:30～17:00 9:15 受付開始
農林水産省 本館7階「講堂」

内容 講演・事例紹介・資機材等展示・鳥獣被害対策に係る
ポスターセッション

定員 250名

受付 農林水産省本館正面玄関

主催 株式会社 農文協プロダクション

申込締切日

2/19 (月)

参加費

無料

鳥獣被害対策優良活動表彰受賞者からの報告 10:30～12:00

平成29年度鳥獣被害対策優良活動表彰を受賞された方から取組をご報告いただきます。

基調講演 13:40～14:20

ニッポンの肉食——マタギから食肉処理施設まで

田中康弘（マタギ自然塾代表世話人）

1959年、長崎県佐世保市生まれ。島根大学農学部林学科、日本写真学園を経てフリーランスのカメラマンに。阿仁マタギとの長い付き合いをベースに「マタギ自然塾」を2004年から開催。林野庁、トヨタ環境助成、日本財団の事業を実施。西オーストラリアと犬をこよなく愛する虚弱体質中年。著書に「マタギ 矛盾なき労働と食生活」「女猟師」「マタギとは山の恵みをいただく者なり」（いずれも樫出版社より）「山怪」（山と溪谷社）



取組事例紹介 14:20～17:00

〔ジビエ利活用について〕

- 垣内忠正（京丹波自然工房）
- 田中雅規（株式会社 高島屋 洛西店）
- 河戸建樹（わかさ29工房）
- 長野県下伊那農業高校アグリ研究班

〔被害防止対策に係る人材について〕

- 鈴木克哉（NPO法人 里地里山問題研究所）
 - 鈴木正嗣（岐阜大学 応用生物科学部）
- 総合司会
山端直人（兵庫県立大学 自然・環境科学研究所）

資機材等展示・鳥獣被害対策に係るポスターセッション 〔午後スタート 13:00～17:00〕

当日は会場後方において、電気柵、捕獲器、カメラシステムなどの資機材の紹介を行います。また、今回初の試みとして、ポスターセッションのブースを設けました。鳥獣被害対策に係る研究開発等について、研究機関や関連企業より取組をご紹介いただきます。サミット講演の合間にお立ち寄り、情報交換の場としてご活用ください。

*ポスターセッションは1月31日まで応募しております。お申込の詳細は下記webサイト（<http://cj.nbkpro.jp>）をご覧ください。

お申込方法 申込締切日 2018年2月19日(月)

下記 web サイトのお申込フォームからお申し込いただくか、または申込書をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ e-mail または FAX にてお申し込ください。



URL <http://cj.nbkpro.jp>

お申込が多数の場合は参加できない場合もあるので、お早めにお申し込ください。

お申込・お問い合わせ

株式会社 農文協プロダクション（担当：吉元、尾形、菅野）

e-mail chojugai@sinseisaku.co.jp

TEL 03-3584-0416 FAX 03-3584-0485

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-17-2 階



〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

東京メトロ千代田線・日比谷線・丸の内線
「霞ヶ関」駅 A7 出口付近

*会場に専用の駐車場はございません

当日はサミット終了後の18時より、関係者の情報交換会を農林水産省の食堂にて開催予定です。

詳細は上記 web サイト（<http://cj.nbkpro.jp>）をご覧ください。